

平成 26 年 2 月 20 日
独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

スタンドが溶けたスチームアイロン

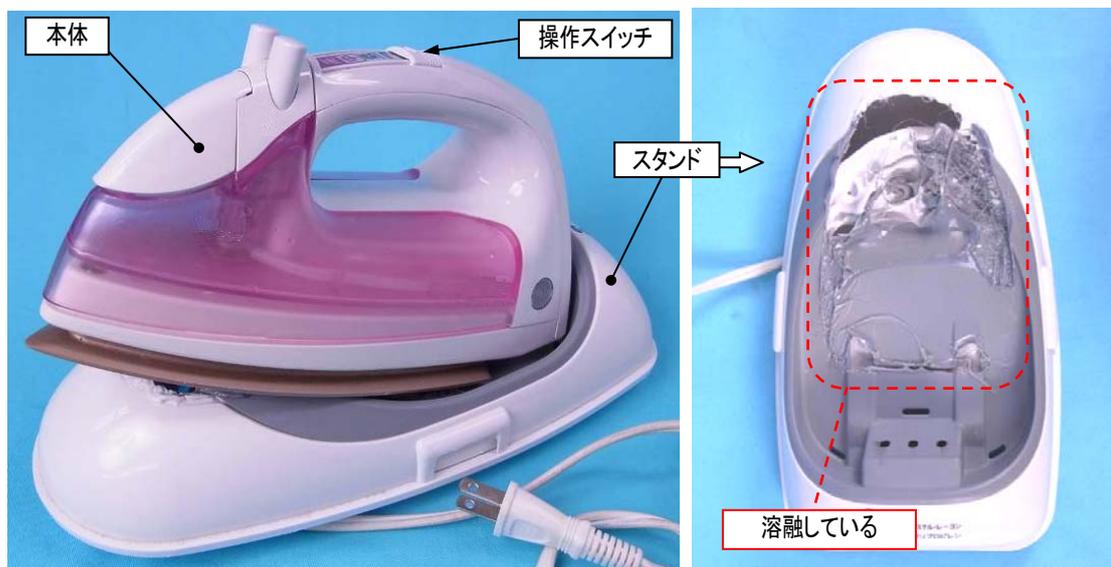
1. 依頼内容

「スチームアイロン（コードレス）を使用中、電源を入れたまま 5 分から 10 分スタンドに置いていたところ、スタンドが溶融した。原因を調べてほしい。」という依頼を受けました。

2. 調査

当該品は本体の操作スイッチでかけ面温度の設定ができるスチームアイロンで、本体には使用による汚れや傷が見られた程度でしたが、本体を載せるスタンドには著しい溶融が見られました（写真 1）。

写真 1. 当該品および溶融したスタンド



当該品の温度設定を「高」にしたときのかげ面の温度を測定したところ、通電してから約 15 分後には最高温度で約 250℃になりました。取扱説明書には温度設定が「高」のときのかげ面の温度は 190℃と記載されていましたが、それに比べると 60℃も高い温度でした。また、同型

の商品についても同じ条件で温度を測定したところ、かけ面の最高温度は約 180℃となり、当該品には何らかの不具合があるためかけ面の温度が高くなっていると考えられました。

そこで、本体を分解して、かけ面の温度が一定の範囲内になるように調節をしているサーモスタットを観察したところ、温度の変化で曲がり方が変わるバイメタルが変形していることが分かりました（写真2）。

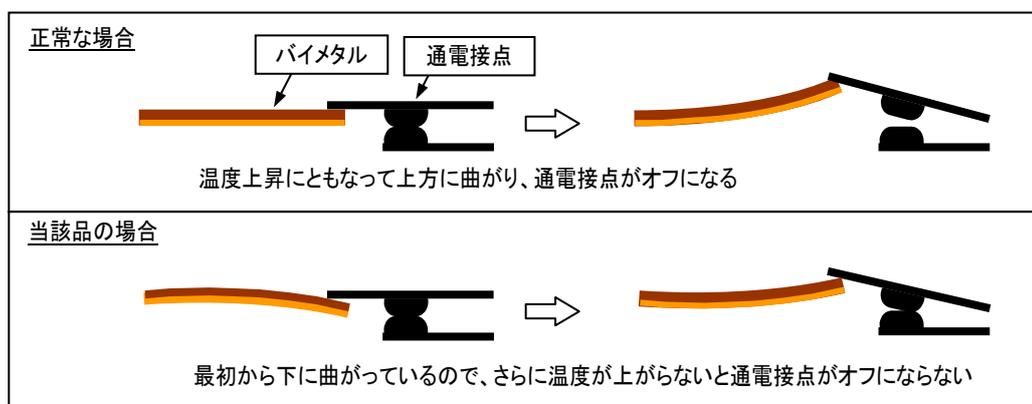
サーモスタットは温度上昇とともにバイメタルが上方へ曲がることで、通電接点に連動する部品を押し上げて、設定した温度に達すると通電接点がオフになり加熱が停止する仕組みとなっていました。当該品はバイメタルが変形（曲がり）していたために、正常な場合と比べて高い温度にならないと通電接点がオフにならないため、かけ面の温度が高くなるものと考えられました（図1）。

写真2. バイメタルの変形



※本体には上下逆に取り付きます。

図1. サーモスタット作動の模式図



しかし、かけ面の温度が当該品と同じ約 250℃になるように調整した同型品を、約 24 時間スタンドに放置しても溶融の程度は非常に軽いもので、10 分程度の短時間でスタンドが溶融した原因を特定することはできませんでした。

3. 解決内容等

依頼センターが今回のテスト結果を事業者に伝えたところ、事業者からサーモスタットの安全装置機能の再確認を工場で行うとの回答がありました。

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165

<title>スタンドが溶けたスチームアイロン（相談解決のためのテストから No. 62）</title>